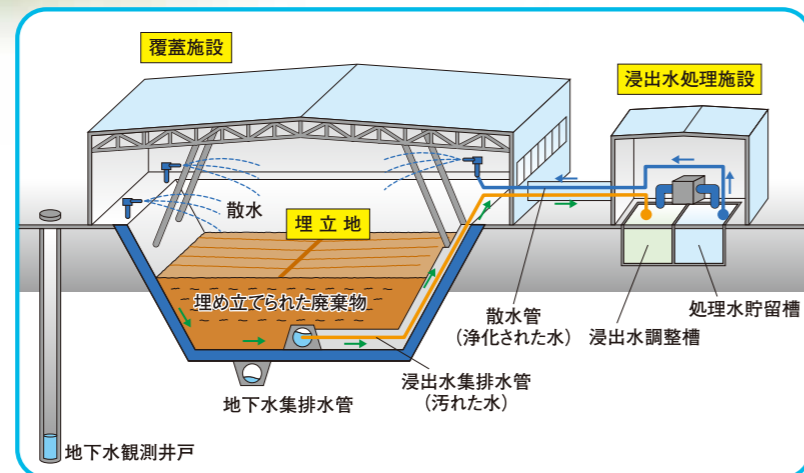


安全な施設として、 として整備します



クローズド・無放流型イメージ



浸出水処理施設

雨水など)と分離します。
浸出水処理施設で浄化した後、
放流しません。

地域に役立つ施設として

県北の環境教育拠点を目指して

- 循環型社会を体系的に学習できる、「環境立県くまもと」にふさわしい、豊かな自然と融和した施設を整備します。
- この施設を活用して、様々な環境教育活動や普及啓発活動に取り組みます。

<h4>覆蓋施設(埋立地)内</h4> <ul style="list-style-type: none"> ●遮水構造の模型・説明 ●埋立作業の見学 	<h4>浸出水処理施設周辺</h4> <ul style="list-style-type: none"> ●太陽光パネルの見学 ●浸出水処理システムの解説 	<h4>自然環境エリア</h4> <ul style="list-style-type: none"> ●親水テラス ●水辺観察テラス ●生きもの観察テラス ●散策路
---	--	---

地域のコミュニティ活動や防災の拠点を目指して

- ため池の周囲に、桜やつつじを植栽した栈敷や、散策路を整備し、住民の皆様が憩い集えるようにします。
- 施設が近隣集落より高台にあり、高い耐震性や耐風性を備えることから、災害時の一時的な避難場所として利用できるようにします。



その他に

- 環境負荷の少ない再生可能エネルギーの利用を促進するため、大規模な覆蓋施設へのメガソーラーの導入を検討します。

事業主体
財団法人 熊本県環境整備事業団
〒862-0950 熊本市中央区水前寺6丁目18-1
TEL096-333-2279

設計・施工
鹿島・池田・興亜・岩下特定建設工事共同企業体
〒861-0821 玉名郡南関町下坂下1953
TEL0968-65-0230

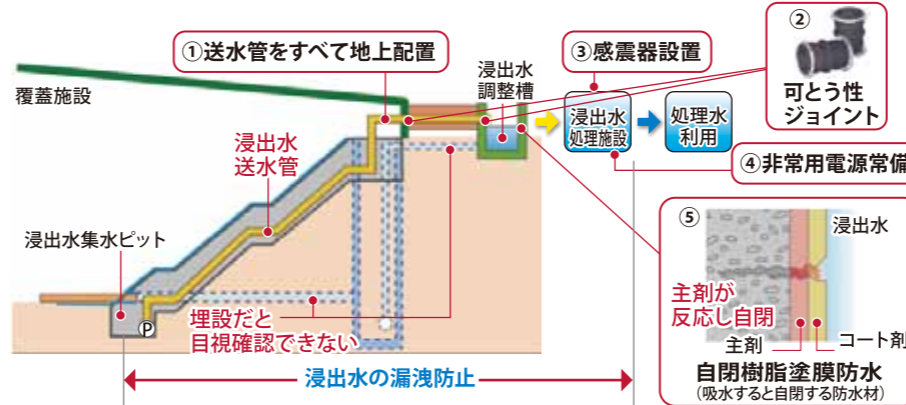
限度まで施設の安全性を追求します



浸出水の漏えい防止対策

地震などの自然災害の際に、周辺環境に悪影響を及ぼさないよう浸出水の漏えいを防止します。

- ① 浸出水の送水管を全て目視点検可能な地上に配置
- ② 浸出水の送水管の接続部は、可とう性ジョイントを使用し、地震時の破損を防止
- ③ 浸出水処理施設に感震器を設置し、地震時は機器を自動停止
- ④ 発電機・軽油等を常備し、非常用電源を確保
- ⑤ 浸出水を貯留する浸出水調整槽に、亀裂が生じても自閉する防水剤を塗布



埋立地内柱の遮水工

柱部と法面部の接合部からの漏水リスクを低減します。

- 工場で製作された成形品を使用
- 現場接合部を最小化



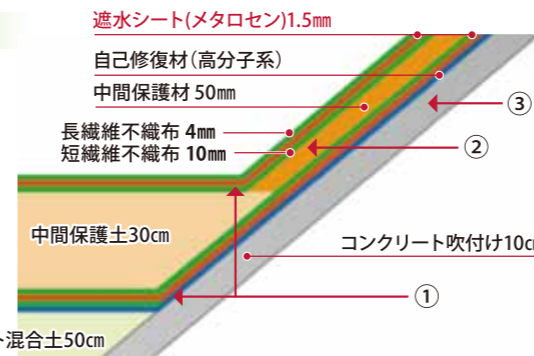
多重遮水構造

埋立地の長期的な安全性を確保するため、国の法令基準を上回る多重の遮水構造で漏水を防止します。

- 全ての遮水シートの施工に日本遮水工協会認定の有資格者を配置
- 現場接合は全数検査を実施
- 底面部の遮水シートは施工後、水張試験(性能評価試験)を実施

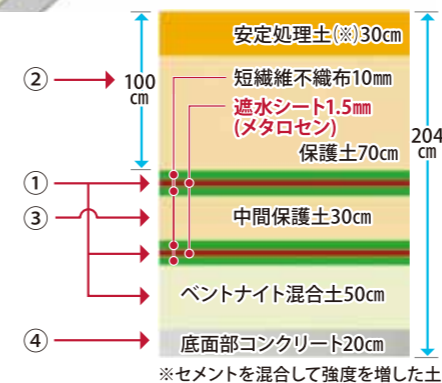
法面部

- ① 法面部と底面部の遮水構造の連続性を確保
- ② 中間保護材で遮水シートの2枚同時破損リスクを低減
- ③ コンクリート吹付で法面部遮水シートを保護



底面部

- ① 2枚の遮水シートとベントナイト混合土の3重の遮水構造
- ② 安定処理土(※)と保護土(計100cm)で保護機能を強化
- ③ 中間保護土で遮水シートの2枚同時破損リスクを低減
- ④ 底面部コンクリートで遮水構造を保護



高精度な漏水検知システム

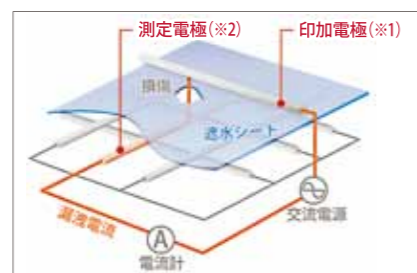
多数の運用実績がある信頼性の高い電気式漏水検知システムでモニタリングします。

- 遮水シートの漏水を高い精度(誤差1mの範囲)で検知
- 上層だけでなく、下層の遮水シートの漏水も検知

※1 交流電圧を加える電極
※2 漏えいした電流を測定する電極



測定電極(中間保護土の上に設置)



漏水検知システムの原理

工事中の環境保全対策

工事期間中の周辺環境への影響を最小限に抑えるために、環境保全対策を実施します。

濁水対策

- 周辺に濁水が流出しないよう濁水処理プラント(100m³/h)で処理



- 土砂による道路の汚れを防止するため現場内にタイヤ洗浄機を設置



交通安全対策

- 工事車両の出入り口に交通誘導員を配置
- 法定速度の遵守、歩行者・自転車の優先など工事関係者の交通指導を徹底



騒音・振動対策

- アイドリングストップの励行
- 低騒音型機械の採用
- 高負荷運転の回避

